

I 知識問題

以下の空欄にもっとも適切な語句を答案用紙に記載してください（答案用紙には、空欄の数字のあとに、語句を記してください。例 1 アウグスティヌス）。（1 問 1 点×15 問＝15 点満点）

1

古代ローマは近代西洋政治思想に大きな影響を与えた。混合政体論を唱えたギリシア人 1__ポリビオス__は共和政ローマが、君主政的なコンスル、貴族政的な 2__元老院__、そして民主政的な民会から構成されていると考えた。マキャヴェリは、主著『3__ローマ史論、デイスコルシ、あるいはリヴィウス論__』においてローマの混合政体が対外的拡大のエネルギーを生み出したと述べたが、主権論の創始者であるフランスの 4__（ジャン・）ボダン__は混合政体を内乱の原因として厳しく批判した。モンテスキューも、主著『5__法の精神__』において共和政ローマよりも近代イギリスを支持した。

2

ローマ帝国初期に成立したキリスト教は、その後、中世から近世のヨーロッパ思想に大きな影響を及ぼした。北アフリカ生まれで、人類史を「神の国」と「地の国」の争いと解釈した教父 6__アウグスティヌス__、キリスト教とアリストテレス哲学の統合を試みた『神学大全』を著した 7__トマス・アキナス__、教会の腐敗を批判し、聖書の英語訳を行った 8__ウィクリフ__、フランス生まれで、スイスの都市 9__ジュネーブ__を拠点として布教を行ったカルヴァン、スペインの植民地支配の過酷さを弾劾した 10__ラス・カサス__など、多くの著名な宗教家が現れた。

3

大航海時代以降、ヨーロッパが世界のヘゲモニーを握る過程で、奴隷制が大々的に展開されていった。その際、ギリシアの哲学者 11__アリストテレス__の奴隷制正当化論が論拠とされることが多かった。イギリスは、本国、新大陸、アフリカを結ぶ「12__三角__貿易」によって莫大な利益を上げた。北米でも奴隷制は社会に深く根付き、たとえば、アメリカ独立革命の指導者であり、天賦人権論を展開した第三代大統領 13__（トマス・）ジェファソン__が多数の黒人奴隷を所有していたことはよく知られている。ヨーロッパが他地域を植民地化していく過程では、原住民の迫害も生じた。北アメリカでは原住民が土地を追われたり、虐殺されたりしたが、その際、農業を土地所有の基礎に据えた哲学者 14__（ジョン・）ロック__の議論（『統治二論』）が援用された。このような近代史の展開は、人類史を平等から不平等への道として描いた哲学者 15__（ジャン＝ジャック・）ルソー__の『人類不平等起源論』にも影響を与えた。

II 論述問題

以下の設問に答えてください。字数は自由です。

（15 点×3 問＝45 点満点）

問 1 マキャヴェリは君主国が共和国に移行することは難しいと指摘した。①その理由を説明したうえで、②現代における独裁国家の民主化の可能性について自分の考えを展開しなさい。

【解答例】

① 理由 1 君主政から大きな恩恵を受け、それゆえ君主政の維持を強く望む少数者が団結して共和革命に抵抗するのに対して、共和政の確立から利益を得るはずの多数派は、しかしながら個々人としては共和政から受ける恩恵はそれほど大きくない一方で、共和革命を遂行するためのコストは高いため、共和革命に積極的に加担しない。

理由2 君主政の支配に慣れてしまった人民は、自力で共和政を運営していくノウハウを欠くため、国内外の問題を解決していくことができず、共和政は成熟する前に、内部崩壊あるいは外国からの攻撃によって崩壊してしまう。

② マキャヴェリの提示する「理由1」、「理由2」に対応する形で、現代の事例を取り上げ、自分の考えを展開する。たとえば、中国の民主化問題、イラン革命、イラク、シリアの内戦問題、あるいは「中東の春」などを取り上げる。

問2 ①西洋における、キリスト教と社会改革・革命運動との結びつきの歴史について説明したうえで、②現代のヨーロッパや北米における、キリスト教の政治との関わりについて自分の意見を展開しなさい。

【解答例】

① 神の前での万人の平等、同胞愛、あるいは弱く・貧しき者たちほど天国に近い、といった、キリスト教の教義が内包する反階級・階層的な側面は、中世以降、プロテスタント革命に代表されるような教会の自己改革運動、あるいは反封建制を掲げる農民運動などを引き起こしてきた。

② 19世紀以降、カトリックの側でもプロテスタントの側でも、大きな社会改革運動は起こらず、むしろ反教会を掲げる世俗的・社会主義的な運動に対して保守的な抵抗を試みるが多くなる。

20世紀後半以降、ヨーロッパの多くの国々では、既存の教会は信徒数を減らし、その政治的影響力は低下している。他方で、北米では、福音派などが信徒数を増やし、保守的な政治勢力と結びついて、政治的影響力を強めている。このようなヨーロッパとアメリカの違いが典型的に表れるのは、中絶問題である。

以上を踏まえて、キリスト教と政治のかかわりについて自分の意見を述べるのならば・・・である（①と②を踏まえて議論を展開する）。

問3 近代西欧において、共和政に対する評価は長い間、両面的であった(肯定的な評価が主流になるのは、18世紀後半以降のことに過ぎない)。①近代西欧における、共和政に対する賛否両論について説明したうえで、②現代のアメリカ合衆国を例にとってこのような賛否両論に対する自分の考えを展開しなさい。

【解答例】

① (1)共和政賞賛論：有能な人材が多く輩出され、国力が高まる。貴族・特権層の横暴が予防され、貧富の差が抑制される。思想の自由が保障され、学芸が発展する。その他。

(2)共和政批判論：党派争いが激しくなり、国の安定が損なわれる。簡単に衆愚政治に陥る。その他。

② (1)アメリカ賞賛論：政治、経済、科学、文芸など、各分野で世界トップレベルの人材が揃っている。

(2)アメリカ批判論：民主党と共和党の間の深刻な政治対立があり、衆愚政治的な傾向もみられる（トランプ現象）。近年、貧富の格差が拡大し続けている。

(3) ①と②のズレについて語る（貧富の格差の問題）。

現代アメリカの政治・社会状況は、既存の共和政評価論との関係で、どのように評価すべきなのか、自分の意見を展開する。